



公益財団法人 岩手県国際交流協会



# 2012いわて国際交流 Autumn Vol.73



平成24年10月発行 2012いわて国際交流 Autumn Vol.73 (公益財団法人岩手県国際交流協会機関誌) http://www.iwate-ia.or.jp/ E-mail:kkkanshi@iwate-ia.or.jp

## あなたも賛助会員になりませんか

趣旨に賛同し、事業を支えてくださる賛助会員を募集しております。賛助会費は、県内の国際交流・国際協力・多文化共生の公益目的事業に役立てられます。

### 会員の特典

- ①協会の発行物をお届けします。  
国際交流情報紙「jien go」  
※学生会員はメールマガジンでの情報提供となります。  
協会機関誌「いわて国際交流」
- ②協会主催の催し等の案内をいち早くお届けします。
- ③協会主催のイベントやセミナーの参加費が優待割引になります。
- ④「エスニックレストランマップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑤「旅行優待マップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑥税制上の優遇措置が受けられます。

### 年会費

- ①個人会員…1口 3,000円
- ②団体会員…1口 10,000円
- ③学生会員…1口 1,000円

協会所定の振込用紙で、指定の銀行よりお振込みいただくと手数料はかかりません。お気軽にお問い合わせください。振込用紙を送付いたします。協会でも受け付けいたします。

## 海外県人会からの来県

### ブラジル岩手県人会

9月27日、千田会長ご夫妻が来年8月に行われるブラジル岩手県人会設立55周年記念式典の案内に来局されました。岩手県知事への表敬や被災地訪問など精力的に県内をまわられました。



### ニューヨーク岩手県人会

10月16日、岩崎名誉会長が16年ぶりに帰国され、NY日本アメリカライオンズクラブのイトウ様と来局されました。NY県人会では、震災直後から様々な支援活動をしていますが、更に被災地のニーズに合った支援を継続的に行うために被災地を視察されました。また、他県ではニューヨークでの物産展など積極的にPRを行っているため、当県も物産のPRや復興支援について、より一層海外へ発信してほしい、県人會も岩手を応援したいと力強く語っていました。



## 寄附のお願い

協会は、県民の方々が世界に目を広げ、国際社会で活躍できるよう、また、県内在住外国人の方々が生活しやすいよう、さまざまな国際交流・国際協力の事業を行っております。活動をより充実していくとともに、民間の立場から国際交流・協力を通して地域の発展や活性化に寄与して参ります。協会の活動を長期的に継続的に、かつ積極的に展開していくため、協会の財政基盤の充実にご支援ください。

※協会に寄附された方は、税法上の損金算入や寄附金控除が認められます。詳細は、お問い合わせください。

### いわて国際理解ハンドブック「世界はともだち」part3

#### 駆け抜けた男 ～フィニッシュテープのその先に～

今から76年前のベルリン五輪。マラソン日本代表として出場し金メダルに輝いた、朝鮮半島出身の男がいた。

その男の名は孫基禎(ソンキジョン)。彼の人生から、「民族」「平和」「日韓友好」について考えるワークショップ教材が完成しました。

今年2012年はオリンピック・イヤーであると同時に、孫基禎氏生誕100周年でした。

孫さんの人生を通じて日本と韓国の歴史を学ぶとともに、これからの日韓交流について考える一助としていただければと思います。

この教材を使ったワークショップの開催をご希望の方は協会までご連絡ください。



### 表紙写真

(中央) Stand Up Take Action (貧困解決のための世界的キャンペーン) 当協会でも、この写真による参加活動への協力を呼びかけ、35人の賛同を得ました。

(右上) 上段左から いわてグローバル・カレッジ (講師:北川達夫氏)、盛岡さんさ踊りパフォーマンス受賞、ちゃっとランド「アジアの楽園!フィリピン」中段左から もりおかNPOまつり「外国のゲームや楽器を楽しもう!」、いわてグローバル・カレッジ(講師:モンテ カセム氏)

下段 ニューヨークからの応援メッセージ旗(「Hope for Japan」)

### 国際交流センター (アイーナいわて県民情報交流センター5F)

■開館日/毎日 ■開館時間/9:00~21:30 ■休館日/年末年始

### アクセスマップ

- 交通のごあんない
- 盛岡駅から徒歩4分 (東西自由通路経由)
- 東北自動車道
- 盛岡ICから車で8分



[発行] 公益財団法人 岩手県国際交流協会  
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号  
TEL.019-654-8900 FAX.019-654-8922

[印刷] 山口北州印刷株式会社  
〒020-0184 盛岡市青山4丁目10番5号  
TEL.019-641-0585 FAX.019-648-1026

※本誌掲載の記事、イラスト・写真の無断転載、複写を禁じます。

## 特集 ▶ 国際リニアコライダーで岩手はどう変わる?

- 01-03 芝浦工業大学学長 村上雅人氏 インタビュー
- 04 岩手県首席ILC推進監 大平尚氏 インタビュー

## 特集 ▶ 被災地を元気に ~人が繋げる復興支援~

- 05 海外での経験を地域の復興に
- 06 だけどボクらはくじけない ~大槌のまちづくり~
- 07-08 Close Up  
■ニューヨークで受け止めた思いを被災地へ  
■英語を通じて子どもたちに元気を
- 09-10 平成23年度 協会の事業及び財務の状況





海外に目を向ける原点は何ですか

高校時代、米国の高校に1年間留学しました。それまで県外に出たことがなく、情報は本などで得ていました。当時の米国は世界をリードする国で、漠然と世界を見てみたいとの希望がありました。聞くと見るのとは違い、米国の豊かさを実感しました。世界中から来た高校生と意見交換できたことがためになりました。今の国際化で重要なのは、まず世界の多様性を理解することだと思いますので、高校での留学は大きな経験になりました。

科学に興味を持つようになったきっかけは何ですか

小さい頃から、父が科学の大切さを話してくれました。科学の進歩に業し実験も解析も大変です。できれば基本粒子同士をぶつけて、それで何が起るかを見た方が簡単ですね、それを可能にするのが、線形加速器です。線形でまっすぐ飛ばすので制御がしやすく、今までぶつけられなかった小さいものもぶつけられます。それを世界中の研究者がぜひ実現したいと考えています。ヒッグス粒子が見つかって終わりではなく始まりです。素粒子が見つかれば、性質を調べなくてはなりません。線形加速器で基本的な衝突だけ起こして解析すれば、すごく楽になります。それを可能にするのが、リニアコライダー。世界中の研究者はヒッグス粒子が見つかったら、次はこれだと言っています。岩手は、次のステップに手を挙げています。

なぜ岩手が候補地に挙げられたのですか

地中に長いトンネルを掘らなければなりません。そうすると、地震でも壊れないような地盤でなければなりません。世界中で候補地を探していますが、岩盤を含めた地理的条件からすると最有力候補が日本です。日本国内では、地震でも装置がずれないような岩盤を考えると岩手県か福岡県の二カ所しかないという考え方はあります。福岡のデータを詳細に見たわけではないのですが、小さい頃から

北上山地の地下に世界で唯一の巨大な実験施設が造られ、世界中の研究者たちが集まる国際的学術都市ができあがる。そんなSF小説に出てくるような未来都市が岩手で実現するかもしれません。2013年夏には国内候補地が決められるという国際リニアコライダー(ILC)計画。岩手にとってどのような意味を持つのでしょうか。そして私たちにはどのような影響があるのでしょうか。科学と岩手の国際化について考えます。

## 特集1 国際リニアコライダーで 岩手はどう変わる?

よって世の中が便利になること、世の中に貢献する仕事に興味がありました。科学雑誌の付録に簡単な実験道具がついてきて毎月届くのが楽しみでした。知らないことだらけなので、「すごいなあ」と感動を覚えました。

現在岩手が誘致しているリニアコライダーについて教えてください

われわれ人間を含め、宇宙の全てのもので何からできているのかをみんな知っています。科学が進み、全てのものが原子からできていることが分かりました。原子は元素ともいいます。その構造は、電子と原子核であり、原子核は中性子と陽子で構成されています。電子は基本的な粒子で、陽子や中性子にはまだ構造があることが分かりました。陽子や中性子をぶつけて壊し、基本的な粒子が飛び出してくるかもしれないと考え実験が始まりました。ぶつける衝突を英語でコライド、衝突させるものをコライダーと言います。その実験のために科学者が考え出したのが加速器(コライダー)です。加速器でぶつけて出てきたものを一生懸命

リニアコライダーによってどんな未来がもたらされますか

物質の起源をみつけるのは、エネルギー問題にも直接関係があります。新しい形態のエネルギーが生まれる可能性があります。応用を考えると、いいのですが、科学の一番いいところは、科学そのものの進歩が人間を豊かにするという面です。人間の欲求として、わからないものを何とか知りたいということがあります。これに答えてくれる場なのです。単純に何に役立つという話も重要ですが、人類が今まで知らないことが、岩手県にある装置でいろいろ分かってくることは、世界的視野で考えるなら大きい。また、CERNの例を見ても、世界各国から家族を連れて研究者が集まります。国際化という観点では、日本の中でも例をみない先進的な地域になります。岩手にとっては、こちらも大きいと思っています。

国際学術研究都市を実現するにあたり、世界に目を向けた人材づくりで、環境、言葉以外に意識しなければならぬことは何ですか

命観察します。陽子もたくさんの子からできているのが分かりました。それが究極なのか、実はまだ分かっていません。

一方で理論があります。素粒子の分野は、湯川秀樹先生以来の理論と実験の両方で進歩してきた学問です。日本人も貢献した理論の中でこれはあるはずだと言われた最後の素粒子を「ヒッグス粒子」といいます。CERN(欧州原子核研究機構)がその痕跡を発見したというので大騒ぎになっています。ぶつけて出てきたものから探しますが、仲間と結びついてしまうものもあり非常に複雑で、実験も解析も大変。ヒッグス粒子が見つかったかもしれないのに確定しないのはそういう事情があります。

ものごとを理解するには、世界が何でできているかという基礎の部分を理解していないと発展がない。だから、一生懸命発見しようとして頑張っています。今世界的に造られているのが円形加速器です。粒子を加速するには非常に長い距離が必要ですが、たとえば、地球から太陽までの距離で加速したくても無理ですね。円形にすると終わりがないのでぐるぐる無限に加速できます。粒子は、非常に小さいので、それぞれ束にしてぶつけます。壊れて出てきたものを解析するのは難しくなります。何千人という研究者が集まって共同で作

英語の上手い下手よりも、相手をよく理解すること。多様性ですね。ある経済学者の話で、かつて米国の企業が世界戦略に打って出るときに、いろいろな国で自分たちの価値観を植え付けようとした。それで反感をかってしまい、結果的にはうまくいかない企業が多かったそうです。それぞれの国で文化や習慣が違うことをちゃんと理解して地域に溶け込む努力をしないと真の国際化は難しい。これは歴史の教訓としてもあります。柔軟性や対応能力のある人は、言葉も後から付いてきます。相手のことを理解しようとする、コミュニケーションシヨンをしますね。それが一番大事だと思います。今、大学でも学生たちいろいろな国の人と出会う機会を企画しています。以前、私が企画して、日本人学生と東南アジアの留学生が1泊で日本の工場見学に行きました。ホテルの部屋割りには日本人学生と留学生を一緒にしました。習慣や宗教も違うのに、次の朝、すっかり仲良くなって片言の英語で一生懸命コミュニケーションをとっていました。「知らなかったタイやベトナムの話を聞いてよかった」と、友だちになつていたので。若いっていいなあと思いました。たった一晚でだいぶ考え方が変わります。その経験が大きいと思います。



マルチナシヨナル・サイエンスシティ  
仮に研究所が来た場合、世界各国から研究者3千人、家族を含めると1万人の人が来ます。ILCは学術研究機関なので、これが来れば、産業が興るといってわけではありませ



大平 尚さん  
岩手県政策地域部政策推進室  
首席ILC推進監

国際リニアコライダー(以下ILC)建設候補地に本県北上山地、脊振山地(福岡、佐賀県)など6カ所が挙げられている。岩手県ではILCを核とした国際科学技術研究圏域を作るため、ILC誘致に取り組んでいる。わたしたち県民にとってどのような意義があるのかを県ILC推進室の大平さんにお話を伺った。

ILCと復興  
今、電気産業が県外に出て行っている。それに代わる産業を考えていかなければいけません。ILCは世界最先端の加速器です。加速器という言葉はあまりなじみがありませんが、今でも東北の加速器関連産業の規模は6兆円で、放射線技術、タイヤ製造、医療機器、シャンプーなど産業界に貢献しています。われわれの生活の中で加速器はなくてはならないことになってきている。ILCの建設期間10年と、運用期間20年の

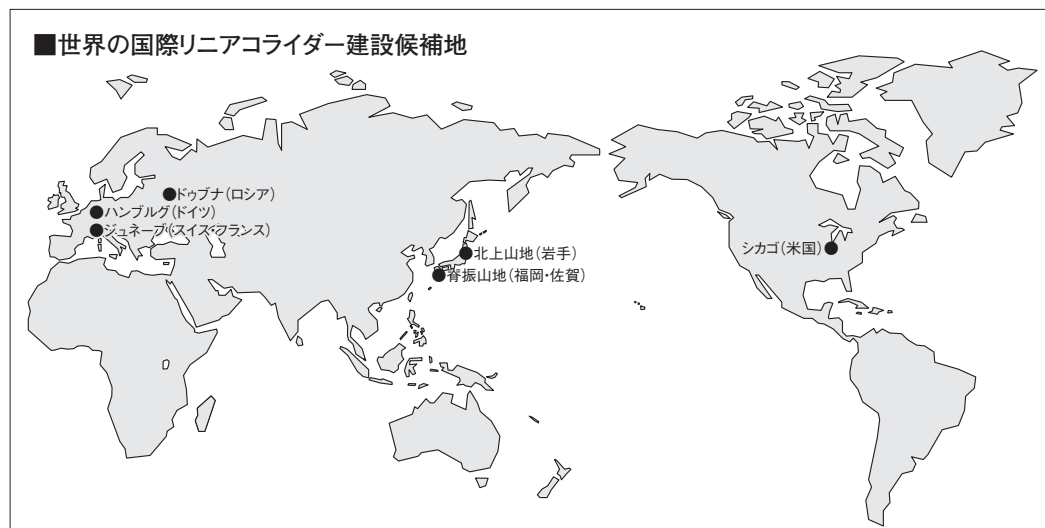
るし、世界トップの研究機関が来るので、地域社会に波及させていくことを考えています。候補地は北上山地の東側なので、比較的陸前高田などの被災地から近い。被災地の復興をにらみながら、産業に対する波及効果を最大限に発揮するような仕組みを考えています。その一つが科学技術産業パークです。ここでは、人材育成、共同研究などを行っていただきたい。1万人の人口増に伴い、約2100戸の住居建築を想定しています。外国人を囲い込むのではなく、日本人との共生を考えています。「多国籍共生により世界最先端の科学創造と技術革新を先導する圏域(マルチナシヨナル・サイエンスシティ)」をコンセプトとして掲げています。

ILCの必要性  
岩手大学、東北大学、一関高専、地域の企業など加速器産業に参入し

「建設」と「活動」により発生する経済波及効果は、生産誘発額で約4・3兆円、誘発雇用者数で約25万人を推計しています。  
誘致にかかる資金  
建設には8千億円かかるといわれています。その半分は誘致した国が負担し、残りはアメリカなど研究に参加する国が負担することになっています。ただ、道路、コミュニティセンターなどは自治体の負担がある程度必要。民間の投資など、地域で知恵を出し合っていきたくないと考えています。今、県は復興を最優先に考えています。防潮堤、復興住宅などを建設するのが一番です。県の復興計画は2011年から8年間。ILCは来年夏に国内の立候補地が福岡か岩手の1カ所に決められます。それから最短でも18年くらいから最初の工事が始まり、稼働は25年以降です。復興が終わった後に新しい産業が来る。我々は今受け入れるために一生懸命やっていますが、やらないと困るからやっているんです。地域を再生するためILCを核とした東北をつくりたい。

科学が身近に  
近い将来、おばあちゃんがご飯を食べながら「ビッグス粒子ってこういうもんだ」と孫に話す時代が来るかもしれません。ぜひ岩手の若い人たちに、わからないものがわかるといってワクワク感を感じてほしいのです。好奇心を持ってILCを身近に感じてほしいです。

てみようとするれば、参入できるものが必ずあります。スイス・ジュネーブに欧州合同原子核研究機関(CERN)があるが、CERNができたことによって、近くの町の人口が増えたというデータがあります。世界に数台しかないレーシングカーを作ることによって、市販の自動車の性能がよくなり、アポロ計画によって新しい素材がつけられました。同様にILCによって、技術が産業に還元されるのです。  
放射線の危険性も指摘されますが、病院だって、レントゲン撮るときは技師が部屋から出るとか、ドアに放射線のマークを貼ったりとか、きちんと管理されていますよね。研究所のトンネルも運転中は入れませんが、止めれば、一般人も内部を見学できます。筑波にもこれより小さい装置があって、県内の高校生なども見学に行くと、感激して帰ってきます。



海外の学生が自分の研究できる環境を求めて国を移動しますが、日本としての取り組みは  
米国では独自の研究が生まれるといわれますが、それはいろいろな国の研究者を受け入れているからです。彼らがお茶の時間に集まってディスカッションしている中から斬新なアイデアが実は生まれています。自分の住んでいる世界の中だけで考えると殻を破るアイデアが出ないときがあります。いろいろな国の歴史観も違う人と話すことで斬新なアイデアが生まれてくる人が多いです。特に科学の分野では、これが非常に大事だと思います。

海外に出て行って、いろいろな国の人と付き合うときに心掛けていることは何ですか  
わたしは元々人見知りをする方で、海外でもできれば交流よりひとり調べものをしていくほうがいいのですが、心にむち打ってできるだけ多くの人と交流するようにします。最初はつらいですが垣根を越える努力をします。話しているうちに楽しくなります。一度友だちができるようになるんです。国を超えたネットワークが研究にとって必須です。画期的な成果を上げた人の話を聞くと、他の分野の話がヒントになったということがあります。

村上市生まれ。盛岡第一高等学校在学中、サンフランシスコに1年間AFS留学。東京大学卒業、同大学院博士課程修了。新日本製鉄株式会社入社。第一技術研究所で超電導と形状記憶合金の研究に携わる。その後、超電導工学研究所の研究室長、部長。名古屋大学、岩手大学等の客員教授を歴任。2003年4月芝浦工業大学工学部材料工学科教授に就任。2008年4月より副学長、2012年4月学長に就任。世界で初めて超電導による人間浮上に成功、日経BP賞、1991World Congress Superconductivity Award of Excellenceなどを受賞。また、世界最強のバルク超電導磁石の開発にも成功し、Natureに論文が掲載されている。超電導分野では、論文の引用件数が世界のトップテンに入った。



村上 雅人さん

Profile

1955年盛岡市生まれ。盛岡第一高等学校在学中、サンフランシスコに1年間AFS留学。東京大学卒業、同大学院博士課程修了。新日本製鉄株式会社入社。第一技術研究所で超電導と形状記憶合金の研究に携わる。その後、超電導工学研究所の研究室長、部長。名古屋大学、岩手大学等の客員教授を歴任。2003年4月芝浦工業大学工学部材料工学科教授に就任。2008年4月より副学長、2012年4月学長に就任。世界で初めて超電導による人間浮上に成功、日経BP賞、1991World Congress Superconductivity Award of Excellenceなどを受賞。また、世界最強のバルク超電導磁石の開発にも成功し、Natureに論文が掲載されている。超電導分野では、論文の引用件数が世界のトップテンに入った。